

ドラマティック日本史第5弾

“日本の絵画史 仏教絵画から水墨画・大和絵・浮世絵まで”

講師：若村 亮先生

日時：4月13日（月）

絵はスポンサーがいて初めて発展し、各時代の要望が特徴となっている。

1 仏教絵画

仏教伝来とともに大陸から伝わった。

例；我が国最初の作品は、法隆寺の「金堂壁画」

806年に空海が密教を持ち帰り、密教絵画が伝わった。

例：東寺の「曼荼羅」

平安中期頃から浄土信仰が生まれ、極楽浄土への往生を願う貴族の間で盛んに浄土教絵画が制作された。

例：知恩院の「早来迎」

また平安中期頃から、各宗派の普及のための祖師や高僧の祖師像が発達した。

例；高山寺の「明恵上人樹上座禅図」

さらに、武士の時代に入ってくると、貴族社会では呪詛の道具になると禁忌だった人物の肖像画が描かれるようになった。

例：神護寺の「伝 源頼朝像」ほか

2 絵巻物

9世紀当りから、物語などのビジュアル化として、源氏物語絵巻・社寺の縁起絵巻・合戦絵巻などが誕生した。

例：高山寺の「鳥獣人物戯画」、北野天満宮の「北野天神縁起絵巻」

3 水墨画

鎌倉時代になると、禅宗とともに山水画が伝わる。

室町時代には明で学んだ雪舟がカリスマとなり、後世に多大な影響を与えた。

4 大和絵

中国から伝わった絵画に対し、平安時代以来のカラフルな伝統的な日本の絵画様式を大和絵と呼び、宮廷絵師として活躍した「土佐派」が一流派として確立し日本絵画の頂点を極めた。

5 狩野派

室町幕府の御用絵師だった狩野一族は、水墨画と大和絵を融合させた「狩野派」として、松の大木、鷹などをモチーフとした勇壮な作品スタイルを確立し、日本画壇の頂点に君臨した。

例：「洛中洛外図屏風」、「四季花鳥図襖」、二条城の「障壁画」など

6 その他

●長谷川派

雪舟の水墨画の流れを組む長谷川等伯を祖とする一派。等伯は狩野永徳と並び称され、智積院の「楓図」「松に秋草図」など。

詳しくは6月の回で。

●琳派

大和絵の伝統を基盤として、江戸初期に本阿弥光悦～俵屋宗達～尾形光琳によって完成された装飾的傾向の強い画風の一派。詳しくは9月の回で。

●その他

丸山四条派、伊藤若冲や浮世絵など・・・

（記事：広報担当 石田 哲也）

